

## [巻頭言]

## センター長就任のごあいさつ

菅沼 拓夫

東北大学サイバーサイエンスセンター

平成 31 年 4 月 1 日より、サイバーサイエンスセンター長に就任いたしましたので、一言ご挨拶させていただきます。

まず私事で恐縮ですが簡単に自己紹介をさせていただきますと、私は、平成 22 年 10 月に、東北大学電気通信研究所から本センターに着任し、それ以来 8 年間、情報通信基盤研究部に所属し、主に統合電子認証システムや全学メールなど、学内情報基盤・サービスの企画・運用支援を担当してまいりました。本センターに勤務する以前は、センターとの関わりは薄かったのですが、少し年代を遡ると、私が学位を取得した千葉工業大学の情報工学科は、本センターの前身である東北大学大型計算機センターの初代センター長を務められてその後千葉工大に移られた、大泉充郎先生の多大なご尽力により創立された学科であるとお聞きしています。また学部時代は、本センターとも深く関わりがありその後千葉工大に移られた城戸健一先生の研究室に学び、さらに大学院時代には、野口正一先生の研究室出身の先生の研究室に在籍して、ネットワークの研究に従事しました。千葉という遠い地で、本センターと関連の深い先生方の下で育てていただきました。この度のセンター長着任も何かのご縁以上の強い結びつきを感じずにはおられません、これまでのご恩返しをするつもりで精いっぱい努めてまいりたいと思います。

さて、本センターは、大型計算機センターが 1969 年に設置されて以来、今年で 50 周年を迎えます。その間、平成 13 年の情報シナジーセンターへの改組を経て、平成 20 年の発展的改組により現在のサイバーサイエンスセンターとなりました。現在の形となって 10 年が経過しましたが、センター長としての小林広明先生、曾根秀昭先生の強いリーダーシップの下、大規模科学計算システムの利用と研究をサポートする体制を整え、また、その役割を高度化するために共同利用・共同研究拠点などとしてサービスを広く提供して、大規模計算科学の多くの研究者の皆様方の研究活動をご支援させていただいてきました。現在、本センターの第 3 期中期目標・中期計画期間（2016 年～2021 年）における目標として以下を掲げ、センター業務の運用や研究開発を推進しています。

- ・世界最先端の情報基盤を整備・運用し、先端的な利用技術及び次世代の情報基盤に不可欠な研究開発を行い、独創的な研究推進の環境を創生し、この分野の指導的人材を育成することによって学術研究や産業、地域、文化に貢献する。
- ・共同利用・共同研究拠点として、全国の大学等に大規模科学計算機資源を提供するとともに、次世代の情報基盤の研究・開発を行う拠点として先端的研究成果を追求する。

これらの目標を引き継ぎ、特に大規模科学計算機資源としては、スーパーコンピュータ SX-ACE と並列コンピュータ LX 406Re-2 の運用を通じて、一般のコンピュータよりも 2～3 けた上の計算能力をどなたの研究にも利用しやすく提供するという使命を継承しつつ、世界最先端の大規模科学計算システムの整備・運用・応用の支援に関する研究開発を推進してまいります。また、学内情報基盤については、安定的に運用が可能になった学内ネットワークインフラ上で、情報基盤をいかに活用して研究・教育や大学運営をより充実させるかといった応用の視点で、クラウド化や BYOD、デジタルトランスフォーメーションなどの時代の流れに対応しつつ、情報セキュリティ等の喫緊の課題を解決しながら、情報基盤の整備と人材育成に取り組んでまいります。

本センターが我が国をリードする優れたサービスを提供し、本学内外の関係者の方々、とくに本センターを利用される皆様のご期待に応えられるよう全力で取り組んでまいりますので、今後ともご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。